

蝦名賢造の言葉：

- 「新渡戸稻造夫妻の札幌に残したもっとも美しい、高貴な遺産の一粒は、このささやかな札幌遠友夜学校であった。それは新渡戸をふくむ札幌農学校全体の教育精神そのものの体現ともいうべきものであり、また逆に農学校全体にヒューマニズムの精神を注入することにもなった。」
- 横山芳介はこのような清き精神に触れ、彼の生き様の糧としたに違いない。



札幌農学校校歌

永遠の幸

明治33年 有島武郎作歌

一 永遠の幸 朽ちざる誉 常に我らがうへにあれ
よるひる育て あげくれ教へ 人となしし我庭に
イザイザイザ うちつれて 進むは今ぞ
豊平の川 尽きせぬながれ 友たれ長く友たれ

二 北斗をつかん たかき希望は 時代を照らす光なり
深雪を凌ぐ 潔き節操は 国を守る力なり
イザイザイザ うちつれて 進むは今ぞ
豊平の川 尽きせぬながれ 友たれ長く友たれ

北斗七星に届くほどの高い望み = lofty ambition
Gentlemenとしての節操

三 山は裂くとも 海はあすとも 真理正義おつべしや
不朽を求め 意気相ゆるす 我等丈夫此処にあり
イザイザイザ うちつれて 進むは今ぞ
豊平の川 尽きせぬながれ 友たれ長く友たれ

札幌農学校精神の一つ。真理正義を熱愛した。